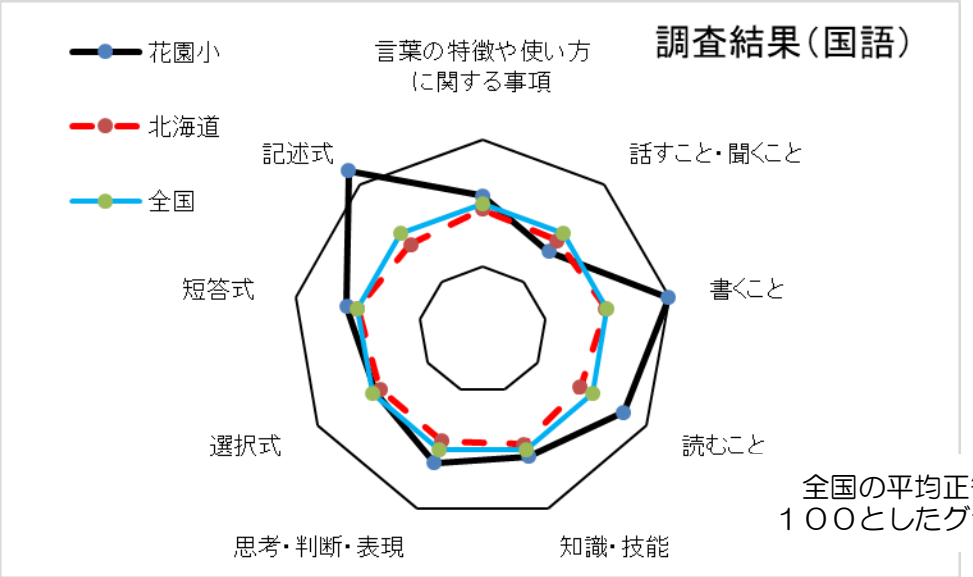
国語

令和３年度　全国学力・学習状況調査の結果を受けて①

５月に６年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の〈結果〉と〈考察〉をお知らせします。この調査結果は，児童の学力の一部を示すものですが，花園小学校の学びの特徴を示すものと考えています。子供たちの学力向上には，日々の授業改善と，望ましい生活習慣の定着が大切です。今後も保護者の皆様のご支援をいただきながら，学力向上に向けた取組みを行ってまいりますので，ご協力をお願いいたします。



〈結果〉

国語は，総合的に全国平均を上回る結果となりました。中でも，「記述式」と「書くこと」・「読むこと」で全国平均を大きく上回りました。「言葉の特徴や使い方に関する事項」でも全国平均を上回っています。しかし，「話す・聞く能力」の領域では，全国平均を下回っています。

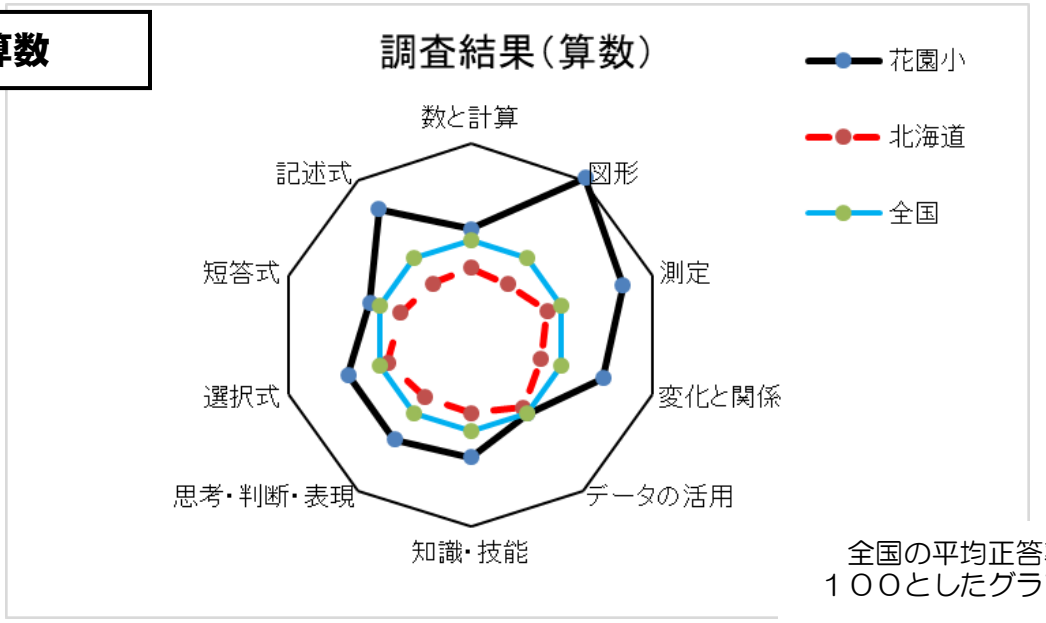
正答率の高かった問題（◎）と低かった問題（△）は次の通りです。

◎思考に関わる語句の使い方を理解し，話や文章の中で使う問題
◎学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題
◎目的や意図に応じ，資料を使って話す問題
△目的を意識して，中心となる語や文を見付けて要約する問題
△文の中における修飾と被修飾との関係を捉える問題
△目的に応じ，文章と図表とを結び付けて必要な情報を見つける問題

〈考察〉

国語への前向きな姿勢をもち，毎日の授業や家庭学習の中で漢字の学習や意味調べをしたり，自分の考えを積極的に書いたりしていることが，“国語力”の高まりとして表れています。一方で「話す・聞く能力」の領域に苦手さが見られました。今後は国語科はもとより，すべての教育活動を通して話す力・聞く力を高める取組として，ペアやグループ，全体交流などで話す場面を設定する，話すことにチャレンジする意欲を育む，わかりやすい話し方・聞き方の方法を押さえるなどを大切にしていきます。

算数



全国の平均正答率を
１００としたグラフです

〈結果〉

算数は，総合的に全国平均を上回る結果となりました。詳しく見ると，「図形」「測定」「変化と関係」では全国平均を上回りました。「数と計算」「データの活用」では全国平均並みの結果となりました。

正答率の高かった問題（◎）と低かった問題（△）は次の通りです。

◎条件に合う時刻を求める問題
◎棒グラフから，数量を読み取る問題
◎速さが一定であることを基に，道のりと時間の関係について考察する問題
◎示されたわり算の結果について，日常生活の場面に即して判断する問題
◎速さを求めるわり算の式と商の意味を理解しているか確かめる問題
◎二等辺三角形を組み合わせた平行四辺形の面積の求め方と答えを書く問題
◎棒グラフから，項目間の関係を読み取る問題
△８人に４Ｌのジュースを等しく分けるときの一人分のジュースの量を求める式と答えを書く問題。
△３０mを１としたときに１２mが０．４に当たるわけを書く問題

〈考察〉

どの項目も全国平均並み以上の結果が出ています。一方で，理由を記述する問題や商が１より小さくなるわり算の問題に課題が見られました。日常の授業やみのりタイムで基礎的な問題を確実に取り組んでいくとともに，授業・家庭学習等において，解く過程を説明したり，別の解法（工夫して解く解き方）にも理解を深めたりするなど，数学的にじっくりと考える取組を大切にしていく必要があることがわかりました。

質問紙調査について

令和 3 年度　全国学力・学習状況調査の結果を受けて②

全国の児童と比較して，「早寝，早起き，朝ご飯」の割合が高く，また，PC 等の使い方についてお家の人との約束を守っている割合が高いです。このことから，規則正しい落ち着いた生活を送ることができている児童が多いことが伺えます。また，「自分と違う意見について考えること」や「友達と協力すること」を楽しいと感じている割合が全国平均を大きく上回っていました。人の役に立ちたいと考えている児童も多く，これは普段の学校生活での活躍にも表れています。

一方で，自己肯定感，失敗を恐れないで挑戦しているか，自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができているかに課題が見られました。自分のよさを確認できる環境を整えること，自分の考えを伝える方法を身につけること，チャレンジを支える雰囲気をつくることを大切にする必要があります。

〈結果〉

学習について

〇国語の勉強は大切で，将来，社会に出たときに役に立つと思っている児童が多い。
〇算数の勉強は大切で，公式やきまりを習うとき，そのわけを理解するようにしている児童が多い。
〇英語の勉強は好きで，英語で自分自身の考えや気持ちを伝えあうことができたと感じている児童が多い。
△算数の勉強で問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いていない児童が全国平均と比較して多い。
△授業以外で英語を使う機会が少ない児童が全国平均と比較して多い。

学習習慣・生活習慣などについて

〇家で自分で計画を立てて勉強をしている児童が全国平均と比べて多い。
〇新型コロナウイルス感染症対策による休校の期間中も計画的に学習を続けることができた児童が全国平均を大きく上回っている。
〇新型コロナウイルス感染症対策による休校の期間中も規則正しい生活を送ることができた児童が全校平均を上回っている。

自己肯定感・規範意識などについて

〇「自分と違う意見について考えること」や「友達と協力すること」を楽しいと感じている
〇人の役に立つ人間になりたいと思っている児童が多い。
△難しいことにも失敗を恐れずに挑戦していると答えた児童が全国平均に比較して少ない。

その他

〇将来の夢や目標を持っている児童が多い。
〇友達と話し合うとき，友達の話や意見を最後まで聞くことができる児童が全国平均と比べて多い。

そこで・・・

学力向上に向けた取組

学校では・・・

□基礎・基本の確実な定着を目指します

→少人数加配教員などの人材の有効活用。習熟度別少人数指導の充実。

→みのりタイムの充実。各種調査結果を活用し，児童の実態に応じた弱点を補充。

□授業の改善・充実を目指します

→１時間の授業において，個々の能力を伸長させる学習や他者との関わりで個を鍛える学習を重視。

→自分の思考を整理し書く力を高めたり，自分の考えを伝える力を高めたりする指導を徹底。

→難しい課題への挑戦や，話し合いなどの対話を重視。自己成長への意欲や人との関わりへの意欲の育成。

□各種調査の活用をしていきます

→チャレンジテスト，ＣＲＴ学力テスト，全国学力・学習状況調査などの結果分析を学校全体で行い，各学年の課題となる分野や領域の明確化と授業改善の実施。

ご家庭での取り組みをお願いします。

□よりよい生活習慣の確立

→寝る時間，起きる時間を決めて毎日継続しましょう。

→朝食を必ずとりましょう。

□話す・聞くことへのサポート

→端的に話させたり，手をとめて聞かせたりすることを大切にしましょう。

→学習では，「どうやって解いたの？」など，説明を促すこともよい取組です。

→人前で話すことは，必要であると同時に大変なことでもあります。貴重な経験を積めるのが学校です。お子さんの意欲向上につながる声掛けをお願いします。

□心がふれあう時間の確保

お子さんにとって学校（集団生活の場）は，チャレンジの連続です。お家での良質な睡眠と食事，そして，楽しい会話や励ましがあれば，よりいっそう，頑張っていけます。

→１日１回は学校の話をするなど，子供の気持ちに寄り添う時間を。

→お子さんのがんばりや，よいところ，学習や集団生活の価値などを伝えましょう。

学校と家庭との連携で学力UP！